以上述ぶるが如く海陸兩方面より來る三大强國の脅威は眞に前古未曾有の一大國難であつて、擧國一致之が打開に最善の努力を盡さねばならぬこと勿論である。

五相會議に於ける對立意見

故に此非常時打開の國策を確立すべき五相會議の任務は極めて重大である。會議の眞相は確實に之を窺知し得ないけれども、新聞の報道する所に據れば、先づ對露政策に就て陸相對外相との間に意見の懸隔大なるものがあると云ふ。即ち荒木陸相は露國の極東政策よりして、對露關係の最險惡を不可避なりとの前提に立ちて外交國防等諸般の準備工作を行ふべしと主張せるに對し、廣田外相、高橋藏相は假りに陸相の主張する如く、對露關係が相當險惡なりとするも、之に對し直に萬一の場合に備ふる準備工作にのみ專念するは、險惡狀態を助長するの嫌なきにあらざるを以て、險惡狀態を不可避とする前に、先づ對露關係打開の外交的工作の餘地ありとして互に讓らず、會議は將に決裂に瀕して居ると傳へられて居る。

外相及藏相の此思想は對米關係に就ても同樣であつて、明後年の危機を有利且平穩に乘り切る爲め石井子の進言に基く日米伸裁々判條約の締結によつて、不戰强化工作の目的を達し得べしとなし、大角海相の海軍力充實先行論と深刻なる意見の相違を來しつゝありと云ふ。

要するに軍部兩大臣の主張は軍備の充實に依つて局面を有利に打開せんとするに對し、外相は對手國を刺激して狀況を惡化せしむべき軍備の充實を控へ、主として外交上の手段に依つて難局を回避するを有利と考へ、藏相は又財政上の見地より軍備充實を要せざる外相の意見を支持して居る有樣である。

外交と軍備との相對關係

若し前述の報導が事實であるとし、假に外相や藏相の主張が通る樣なことがあつたならば、それこそ國家を危地に陷るゝものであつて、吾人は斷じて之を承認し得ざることを確言する。固より吾人も亦遮二無二强硬外交を振りかざして挑戰的態度に出づべきを主張するのではない。寧ろ平和を愛好し、來るべき國難を平穩無事に切り拔けんとする趣旨に於ては外相や藏相の意見に同意するものであるけれども、强力なる軍備の後援なくして此の如き外交上の目的達成は不可能なるを切言せねばならぬ。古來名外交家の成功は其主因を常に强大なる武力の背景に負ふこと歷史の證明する所であつて、ジスレリー然り、ビスマーク亦此例に洩れず、此國力特に軍備の背景なく、單に小手先きの外交術に依つて、能く一層强大なる國家に對し、我意思を貫徹し得たる事例は吾人の未だ之を聞かざる所である。若し我外相や藏相がかゝる理想を抱いて居るものとせば、之れは全く空想であり、錯覺であると謂はねばならぬ。

對米對露關係調整の眼目

試みに外相の主張する如く海軍力の充實を後廻はしとして、日米仲々判條約を締結するものとする。元來米國との間に紛議を起すべき問題は滿洲國の承認、南洋委任統治領の歸屬又は米國の對支軍事工作等の如く、皆是れ帝國にとりては死活問題たるに反し、米國にとりては次等の價値を有するに過ぎない。故に廣田外相が若し總括